

2023年12月

神戸アイライト協会の利用者、関係者の皆様

## 神戸市の視覚リハ事業およびアイライトの状況についてのご報告 2312

神戸アイライト協会  
理事長 森 一成

神戸アイライト協会の事業にいつもご協力いただき感謝申し上げます。すでに神戸市の視覚リハビリテーション・専門相談事業(神戸市委託による神戸市視覚障害者生活訓練事業、神戸市視覚障害者生活支援事業)および神戸アイライト協会の事業が危機的状況となっていることはお伝えさせていただきました。その危機的状況は継続しており深刻度を増しています。

異様に低くなった事業予算は今年度も同じで、事業を縮小・変更・撤退も検討せざるをえなくなる危機は続いています。危機回避のための皆様にもご協力いただいた視覚障害者トータルサポート事業存続を求める当事者の会の署名提出、当協会の改善要望にもかかわらず今年度はもちろん、来年度も改善の見通しは得られない状況です。

今年度末の職員の平均年齢は65歳です。組織としては世代交代を早急にしなければならぬ状況ですが、新たに若い人を雇用するのは非常に困難です。また現在の職員の大半も自身や家族に健康問題をかかえています。すでに今年2023年11月に1名退職し、今後も退職や休職が続く可能性があります。世代交代はおろか職員補充も難しい状態です。

安定的に視覚リハ事業実施の大都市の市民一人当たり予算は、おおむね20円から30円です。神戸市はもともと13円と低かったのですが、それが2021年度から9円とさらに低くなりました。採算レベルを大幅に割り込みスタッフは最低賃金レベルで働き、協会は大幅な借金を抱えて事業を続けている現状です。神戸アイセンターのある市としては非常に残念な状況です。

夏に神戸市の実態調査もあり話し合いを続けていますが、来年度以降も改善の見通しは12月末現在、全くたっていません。神戸の視覚リハ改善と発展を願っていますが、事業の縮小・変更は避けられません。状況によっては事業撤退も視野にいれざるを得ない状況です。